

Title	Association of cigarette smoking with a past history and incidence of herpes zoster in the general Japanese population: the SHEZ Study
Author(s)	伴, 淳子
Citation	大阪大学, 2020, 博士論文
Version Type	
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/77529">https://hdl.handle.net/11094/77529</a>
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉</a> 大阪大学の博士論文について <a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed">〈/a〉</a> をご参照ください。

***Osaka University Knowledge Archive : OUKA***

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

論 文 内 容 の 要 旨  
Synopsis of Thesis

氏 名 Name	伴 淳子
論文題名 Title	Association of cigarette smoking with a past history and incidence of herpes zoster in the general Japanese population: the SHEZ Study (一般集団における喫煙と帯状疱疹の既往と発症との関連：SHEZ研究)
論文内容の要旨	
〔目的(Purpose)〕 SHEZ研究において、喫煙習慣と帯状疱疹既往歴並びに帯状疱疹発症との関連を、それぞれ横断研究、3年間の縦断研究により検討する。	
〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕	
・方法 香川県小豆郡在住の50歳以上の住民の中で、協力の意思を示した研究参加者に問診により、帯状疱疹の既往歴の有無を調査すると同時に、年齢・性別等の基本的情報、帯状疱疹の家族歴、生活習慣及び社会心理的要因、並びに基礎疾患の有無等を自記式質問票で情報収集した。喫煙習慣については、現在喫煙、過去喫煙及び非喫煙に分類し、現在喫煙者については、さらに1日あたりの喫煙本数を質問した。 喫煙習慣と帯状疱疹既往歴の横断研究は、それぞれの質問に有効回答を得た対象者についてロジスティック回帰分析を実施し、非喫煙者に対するオッズ比を算出した。喫煙習慣と帯状疱疹発症の縦断研究は、帯状疱疹既往歴のない対象について、Coxハザードモデルで解析し、非喫煙者に対するハザード比を算出した。	
・成績 喫煙習慣と帯状疱疹既往症の横断研究のオッズ比は、非喫煙者を1として、現在喫煙者（男女計）では0.67、現在喫煙男性では0.72、現在喫煙女性では0.65で、統計的に有意であった。現在喫煙者（男女計）を喫煙本数別にみた場合、オッズ比は、1日に1～9本の喫煙者では0.67、10～19本の喫煙者では0.61、20～29本の喫煙者では0.65で、統計的に有意であったが、喫煙本数と帯状疱疹既往歴との間には、量-反応関係はみられなかった。 喫煙習慣と帯状疱疹発症の縦断研究のハザード比は、非喫煙者を1として、現在喫煙者（男女計）は0.52、現在喫煙男性では0.49、現在喫煙女性では0.52で、男女全体及び男性について、統計的に有意であった。現在喫煙者（男女計）を喫煙本数別にみた場合、ハザード比は、1日に1～19本の喫煙者では0.48で、統計的に有意であったが、喫煙本数と帯状疱疹発症との間には、量-反応関係はみられなかった。	
〔総括(Conclusion)〕 帯状疱疹の既往歴は、男女全体及び男女別に分析した結果、いずれも、非喫煙者と比較して、現在喫煙者が低いことが分かった。帯状疱疹の発症は、男女全体及び男女別に分析した結果、非喫煙者と比較して、現在喫煙者（男女計）と現在喫煙男性が低いことが分かった。 しかしながら、喫煙は、ガン、循環器疾患、呼吸器疾患等の大きなリスクファクターであるため、帯状疱疹の予防のために推奨するものではない。	

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名) 伴 淳子

	(職)	氏 名
論文審査担当者	主 査	大阪大学教授 磯 博 康
	副 査	大阪大学教授 藤 本 幸
	副 査	大阪大学教授 榎 江 友 孝

## 論文審査の結果の要旨

小豆郡帯状疱疹プロジェクト (SHEZ研究) の3年間の前向きコホート研究において、住民の50歳以上の男女12,522人を対象として、喫煙習慣と帯状疱疹の既往及び発症の関連を検討した。喫煙習慣は、現在喫煙者、過去喫煙者、喫煙経験なし (非喫煙者)、更に、現在喫煙者は、1日当たりの喫煙本数を10本単位で分類し、質問紙により回答を得た。喫煙習慣と帯状疱疹の既往歴を解析した横断研究では、非喫煙者に比べ、現在喫煙者の既往歴が男女とも約3割低かった。喫煙習慣と帯状疱疹の発症率を解析した縦断研究では、非喫煙者に比べ、現在喫煙者の帯状疱疹発症率は男女とも約5割低かった。喫煙本数と発症率との間には明らかな量-反応関係はみられなかった。更に、水痘抗体の皮内検査を実施したサブサンプル5,685人について、喫煙習慣と皮内反応の紅斑の長径を解析した結果、非喫煙者に比べ、現在喫煙者の陽性率 (長径10mm以上の紅斑) が約7割高かった。これらの結果により、喫煙が細胞性免疫を活性化させ、それによって帯状疱疹の発症が抑制された可能性が考えられた。帯状疱疹の発症要因に関して喫煙の関与を示唆した疫学研究であり、学位に値するものと認める。